

家族ケア論

《担当者名》木浪智佳子[kinami@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

家族看護に関連する理論を踏まえ、がん、慢性疾患、老人・こどものケア、在宅ケア等において家族が抱える課題および家族支援のあり方を探求する。前半では、家族看護に関する理論を踏まえ、家族システムの捉え方と家族アセスメント、家族に対する支援の概要を学習する。後半は、それぞれの領域において学生が遭遇した事例に関し、家族アセスメントおよび援助方法について具体的に学習する。

【学修目標】

1. 家族システムの捉え方と家族アセスメント、家族に対する支援の概要を説明できる
2. 学習した家族看護理論の特徴について、理論的背景、家族アセスメントおよび家族支援の特徴を理解できる
3. 学習した家族看護理論の特徴を捉え、事例に適用し生じている現象を解明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	家族看護学とは	1) 家族看護学の歴史的背景 2) 家族看護学における家族の概念 3) 家族看護学の目的、対象理解、アプローチ法	木浪
3) 4	家族看護学に関連する理論	1) 家族発達理論、家族システム理論をふまえ、家族の発達とシステムについて説明できる。 2) 家族ストレス対処理論をふまえ、家族の変化を把握する視点を整理できる。	木浪
5) 6	家族看護学に関連する理論	1) カルガリー家族アセスメント/介入モデル モデルの特徴、固有の用語や概念を踏まえ、アセスメント、介入目標および支援方法に関して学習する	木浪
7) 8	家族看護学に関連する理論	1) 渡辺式看護アセスメント/支援モデル モデルの特徴、固有の用語や概念を踏まえ、アセスメント、介入目標および支援方法に関して学習する	木浪
9	がん・慢性疾患・高齢者・こども在宅ケア等における家族支援	1) 家族を取り巻く状況と支援 文献を通して、それぞれの領域に関して家族を取り巻く状況を整理し、プレゼンテーションする	木浪
10	がん・慢性疾患・高齢者・こども在宅ケア等における家族支援	1) 家族を取り巻く状況と支援 文献を通して、それぞれの領域に関して家族を取り巻く状況を整理し、プレゼンテーションする	木浪
11	がん・慢性疾患・高齢者・こども在宅ケア等における家族支援	1) 家族支援に関する実践者としての役割の探求	木浪
12	家族支援に関する事例検討	1) 学生それぞれのスペシャリティを踏まえ、これまで遭遇した事例を取り上げ、学習した理論を適用してアセスメントおよび支援方法を検討する	木浪
13	家族支援に関する事例検討	1) 学生それぞれのスペシャリティを踏まえ、これまで遭遇した事例を取り上げ、学習した理論を適用してアセスメントおよび支援方法を検討する。	木浪
14	家族支援に関する事例検討	1) 学生それぞれのスペシャリティを踏まえ、これまで遭遇した事例を取り上げ、学習した理論を適用してアセスメントおよび支援方法を検討する。	木浪
15	家族支援に関する事例検討	1) 学生それぞれのスペシャリティを踏まえ、これまで遭遇した事例を取り上げ、学習した理論を適用してアセスメントおよび支援方法を検討する。	木浪

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

ループリック評価100（プレゼンテーション力40点）、ディスカッションへの参加状況60点）で評価する。ただし、課題が複数となる場合は、点数配分の内訳を授業初回に提示する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

1. 家族看護学 理論と実践 第5版，鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子，日本看護協会出版会，2019.
2. 看護実践に活かす中範囲理論 第3版，野川道子・桑原ゆみ・神田直樹編著，メヂカルフレンド社，2023.

【備考】

当該年度の履修者数によって、グループ編成、課題数を決定する。決定次第、履修者には授業日程および課題について周知する。

【学修の準備】

- ・ 関連資料および関連図書を熟読して臨む。
- ・ 提示した参考書以外であっても、課題に関連した書籍を検索したうえで学修を深める。

【学修方法】

主として、演習形式での学習となる。3～8回はグループでの学習，9～15回はそれぞれのスペシャリティを踏まえたプレゼンテーションについて全員でディスカッションする。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。